

## こども家庭庁コメント

保育分野のDX・ICTは、保育現場の業務負担の軽減だけではなく、政府全体で取り組むデジタル行財政改革の観点からも非常に重要な政策課題となっています。

令和5年度補正予算の「保育所等ICT化推進等事業」では、「保育に関する計画・記録」「保護者との連絡」「子どもの登降園管理等の業務」に加えて、「キャッシュレス決済」システムも対象としています。また、地域の保育所等のICT化を進めるため、自治体・保育事業者・ICT関連事業者などで構成される協議会の設置などの取組を積極的に行っている自治体への補助率の嵩上げを行います。

協議会の開催にあたっては、自治体・保育事業者・ICT関連事業者だけでなく、保育関係団体などにも参加いただき、各関係者が一丸となって保育所等のICT活用の機運醸成を進めていただければと思います。

こども家庭庁としても、保育所等のICT化の推進に取り組んでまいりますので、保育の担い手の皆様におかれましても、政府と力を合わせて取り組んでいただきたいと思います。

## 協議会の目的

協議会の目的は、保育業界におけるICTの導入・活用の促進です。また、自治体補助率の嵩上げを通じて、自治体の経済的負担の軽減と、保育施設の運営効率・保育の質向上の両立を目指せる制度です。

### 自治体の経済的負担軽減

#### ICT補助金の概要 令和5年度補正予算

1)保育士の業務負担軽減を図るため、保育の周辺業務や補助業務(保育に関する計画・記録や保護者との連絡、子ども登降園管理等の業務、実費徴収等のキャッシュレス決済)に係るICT等を活用した業務システムの導入費用及び外国人の子どもの保護者とのやりとりに係る通訳や翻訳のための機器の購入にかかる費用の一部が補助です。

#### 【実施主体】

都道府県(\*1) 市区町村

(\*1)は認可外保育施設のみ

#### 【補助基準額】

##### ■業務のICT化等を行うためのシステム導入

1機能の場合・・・1施設当たり 20万円(併せて端末購入等を行う場合: 70万円)

2機能の場合・・・1施設当たり 40万円(併せて端末購入等を行う場合: 90万円)

3機能の場合・・・1施設当たり 60万円(併せて端末購入等を行う場合:110万円)

4機能の場合・・・1施設当たり 80万円(併せて端末購入等を行う場合:130万円)

##### ■翻訳機等の購入 1施設当たり:150千円

##### ■認可外保育施設における機器の導入 1施設当たり 200千円

#### 【補助割合】

民間の場合 国:1/2、市区町村:**1/4**、事業者:1/4

自治体が運営する場合 国:1/2、自治体:**1/2**

↓

#### 【補助割合】

民間の場合 国:2/3、市区町村:**1/12**、事業者:1/4

自治体が運営する場合 国:2/3、自治体:**1/3**

今後政府が検討することもDX化に伴い、施設のICT化はより一層重要となります。その後押しという側面でも、民間保育事業者・自治体ともにメリットがある制度です。

# 協議会設立から運用の流れ

---

自治体が主体となり、協議会設立・運営する基本的なステップの一例は下記のようになります。実際には、各ステップが前後したり、同時に進行したり、自主的な判断のもと自由な取組みとなります。

## 1. 協議会設立の流れ(例)

### Step1

#### 会議体を決める

- 既存の会議体の活用／協議会の新設／広域連携(自治体連携)などのパターンがあります
- 保育関係団体などにも参加頂き、自治体・保育現場・保育ICTメンバーが一体となってICT活用の機運醸成を図りましょう。

# 協議会設立から運用の流れ

---

## Step2

### 活動内容を決める

→ 自主的なご判断のもと、自由な取組みが可能です

→ 例えば、これからICT導入を検討する施設や、導入間もない施設に向けた支援として、地域のICT導入園の事例紹介・勉強会や研修会／保護者やこどもへのメリット紹介／ICTに関する相談先の役割など

## Step3

### 活動サポートを依頼する民間事業者を選ぶ

→ 保育ICTベンダーや保育ICT販売会社などへ問合せし、サポート範囲を相談する

# 協議会設立から運用の流れ

---

## 2. 協議会運営の流れ(例)

### Step1

活動計画にもとづき、協議会を開催する

### Step2

保育ICT導入を検討する

→ 実際の導入の際は、複数の保育ICTサービスを比較することがおすすめです

### Step3

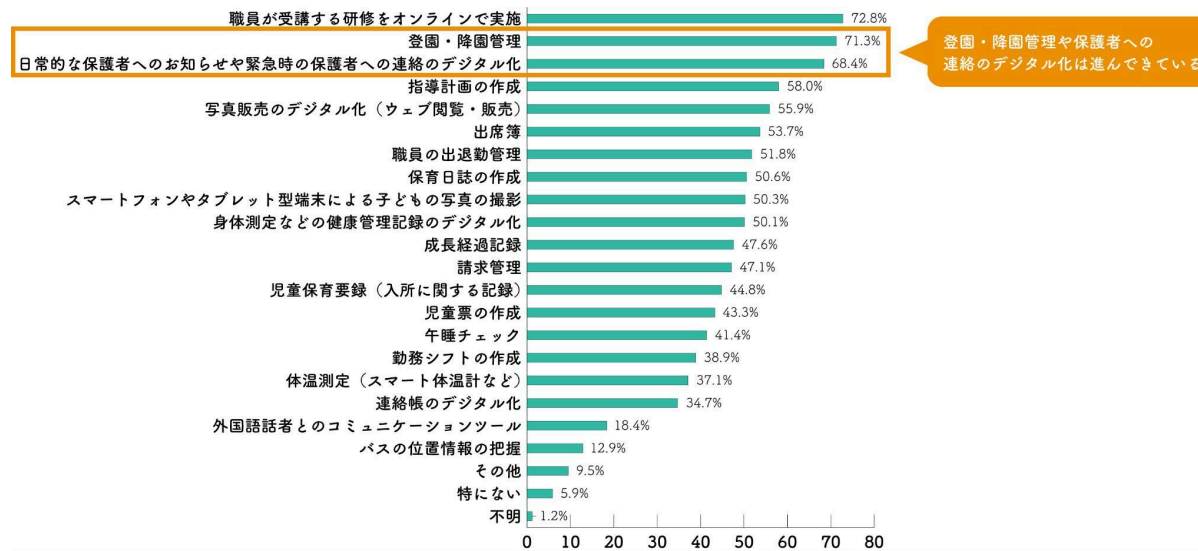
導入後のフォローアップなどを行う

# 保育ICTの導入・活用事例

保育ICTをこれから導入しようとお考えの施設様、および、導入を推進していきたい自治体のご担当者様に、保育ICTの導入の状況、および活用事例についてご紹介します。

## はじめに～保育ICTの導入状況について～

令和5年3月における全国の保育施設を対象とした調査によると、保育施設におけるICT導入は機能ごとに徐々に進んできている傾向にあります。



出典：「保育分野におけるICTの導入効果及び普及促進方策に関する調査研究 報告書」令和5（2023）年3月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、P.46より全体数を抜粋・作図

## ICT導入に際し、つまずきやすいポイント

一方で導入のハードルになっていること、導入後の活用にはまだ課題があるとされており、導入においてつまずきやすいポイントは、主に下記の5つに分けることができます。

### つまずきポイント1. 資金的な不安がある

＜解決策＞導入のための資金的な支援を活用する

未導入の園については、国による補助金(下記)が活用できる可能性があります。施設が所在する自治体の窓口へ以下の補助金が活用可能か、確認してみましょう。

- 保育所等におけるICT化推進等事業
- 保育環境改善等事業(午睡センサー等が対象)

### つまずきポイント2. 誰に聞けば良いかわからない

＜解決策＞自治体や事業者へ問い合わせをする

補助金については自治体へ、具体的なサービス内容等についてはサービスの提供事業者へ問い合わせをしましょう。

＜問い合わせ先＞

- 施設が所在する自治体(保育施設運営関連について所掌する部署)
- ICTサービス提供事業者(一般的には事業者のサポート窓口があります)
- 保育商社(園に対し保育用品等を販売する会社)

### つまずきポイント3. 何からすればいいかわからない

＜解決策＞オンライン研修等を受け、導入の目的等を明確に持つ

民間事業者等が実施するオンライン研修を導入前・中・後に受け、園の事情に合った導入をしましょう。

＜オンライン研修の受講(導入前・中・後)＞

- (前)保育方針の確認・業務改善に関する優先順位や実施事項の決定
- (中)ICT実践前の必要な準備・計画・設定等
- (後)効果的な活用や課題を乗り越える研修

### つまずきポイント4. 決裁者の理解を得られない

＜解決策＞導入のメリットを説明する



ICT導入には資金的な支援(つまずき1参照)を活用できる可能性があることを伝えた上で、ICT導入が園が抱える課題解決に貢献する点について説明することも一案です。

<ICT導入効果(例)>

- 書類作成・電話等の負担を軽減でき、ペーパーレス化により経費節減にもつながること
- 保育の質の向上に貢献すること
  - 子どもと接する時間の増加
  - 保育の振り返り時間の確保
  - より丁寧な一人ひとりの成長見守り等
- 保護者とのコミュニケーションも円滑になること

つまずきポイント5.現場の保育者の理解を得られない

<解決策>使いやすく、保育の質の向上にも貢献することを説明する

「今の仕事が否定されるのでは」「操作が難しそう」と心配される方が多いようです。導入の目的と内容についてオンライン研修を受けたり(つまずき3参照)、責任者等から丁寧に説明する場を設けたりしてはいかがでしょうか。また、以下についても説明すると良いと思われます。

- 現在の業務の否定ではないこと(全てをICT化する必要はありません)
- 使い方は難しくなく、やがて慣れる人が多いこと疑問点があればすぐに聞ける人(窓口)がいること
- 保育の質の向上面でも効果的になり得ること(子どもと接する時間の増加、保育の振り返り時間の確保、より丁寧な一人ひとりの成長見守り等)

出典:「保育所等におけるはじめてのICT活用ハンドブック」令和5(2023)年3月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、P.17-18より

## 「保育所等におけるはじめてのICT活用ハンドブック」のご紹介

これらの流れを受け、厚生労働省(現・こども家庭庁※1)の調査研究事業の一環として、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が2023年3月に



『保育所等におけるはじめてのICT活用ハンドブック』  
を発行しました。

こどもDX推進協会の理事企業(ユニファ社)は、保育ICTの導入・定着にあたっての知見を  
本ハンドブックに提供しています。

アンケートやヒアリング実施に関わる知見の提供やコーディネート等にも携わった他、  
同調査研究の一環として作成された「保育所等におけるはじめてのICT活用ハンドブック」  
(以下「本ハンドブック」)作成をリードしました。

※ユニファは、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社より委託を受け参画しました

本ハンドブックは、ICTの導入・活用に対する苦手意識や抵抗感を減らし、導入・活用を  
促進する一助となることを目的にしており、保育分野におけるICTに関する知見を活かしつつ、大豆生田啓友先生(玉川大学教育学部教授)を座長と  
した有識者会議の委員の方々や、厚生労働省(当時)の皆様からもご助言をいただきながら、保育分野におけるICT導入・活用に関してまとめていま  
す。

#### ■ 同調査における有識者会議の座長を務められた有識者からのコメント



大豆生田啓友先生(玉川大学 教育学部 教授)

これからICTの導入・活用を考える保育現場のみなさまにとって、とてもわかりやすい内容となっているのではと思います。  
このハンドブックがたくさんの方に届けられ、ICT活用が広がり、保育の質向上につながることを願うばかりです。

▼ 入手方法

- ・ハンドブック冊子PDF <https://is.gd/usHvun>
- ・三菱UFJリサーチ&コンサルティング ウェブサイトに公表されています。  
[https://www.murc.jp/library/survey\\_research\\_report/koukai\\_230413/](https://www.murc.jp/library/survey_research_report/koukai_230413/)

## 保育所等におけるICT化推進等事業(令和5年度補正予算) 補助金対象となる機能におけるICT導入・活用事例のご紹介

ハンドブックで紹介されている導入・活用事例は、保育所等におけるICT化推進等事業補助金対象機能以外についても紹介されています。保育ICT補助金対象機能の導入検討をされる場合、まずは一般社団法人こどもDX推進協会にて作成した、保育ICT補助金対象機能の導入・活用事例をご参考下さい。

保育ICT補助金対象機能の導入・活用事例 [「保育ICTを導入すると保育施設の業務はどう変わる？」](#)

# 保育ICTを導入すると 保育施設の業務はどう変わる？

令和6年 3月 15日

# 【参考】令和5年度補正予算保育ICT補助金対象機能



## ● 補助金の概要（一例）

保育士の業務負担軽減を図るため、保育の周辺業務や補助業務（保育に関する計画・記録や保護者との連絡、子どもの登降園管理等の業務、実費徴収等のキャッシュレス決済）に係るICT等を活用した業務システムの導入費用及び外国人の子どもの保護者とのやりとりに係る通訳や翻訳のための機器の購入にかかる費用の一部を補助する。

※こども家庭庁「令和5年度補正予算の概要（参考資料）」の保育所等におけるICT化推進等事業より抜粋

## 補助金の対象となる主な要件

### 保育計画や記録



具体的なICTツール例

日誌

指導計画

園児台帳

など

### 保護者連絡



具体的なICTツール例

おたより

連絡帳

一斉連絡

など

### 登降園管理



具体的なICTツール例

打卡管理

など

### 実費徴収等の キャッシュレス決済



具体的なICTツール例

クレジットカード決済

QRコード決済

請求・口座振替管理

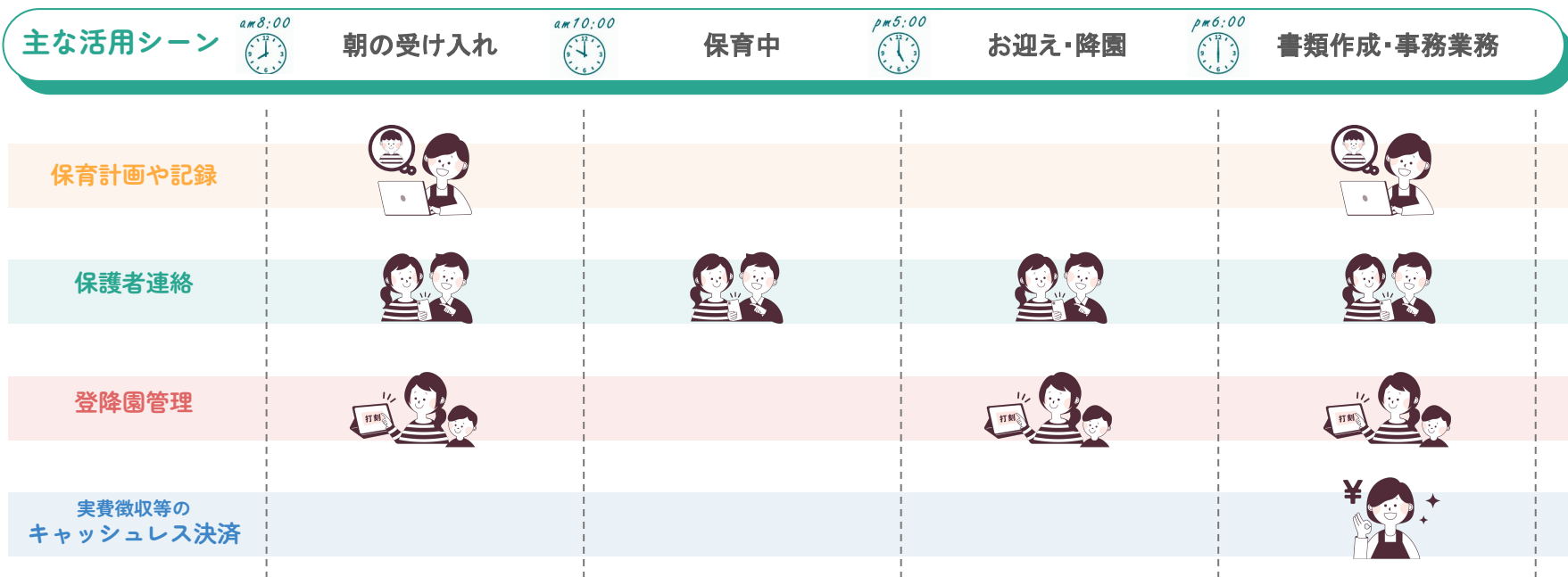
など

NEW

# はじめに



保育業務において、ICTを導入すると何がどのように変わるのか、なかなかイメージが湧かない部分もあるかと思います。本資料では、保育CT補助金対象機能を導入した場合の、具体的な園の一日の業務の例を取り上げて、ICTがどう便利なのかをご紹介します。



# 朝の受け入れ時間（保護者連絡、登降園管理）

※登降園管理はお迎え・降園時を含みます



## ICT導入前

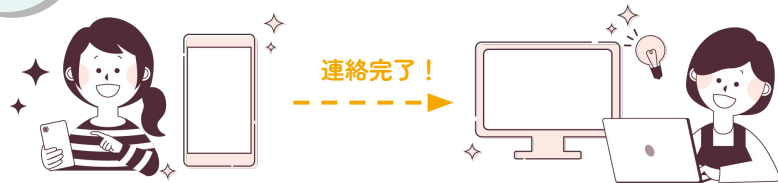
- 朝の忙しい時間帯に玄関と教室と職員室を何度も往復
- 打刻時間の記入漏れのチェック依頼など、保護者も保育者も朝の時間は大変



## ICT導入後のイメージ

保護者  
連絡

保護者連絡はアプリ経由で園に届くため、先生は子どもから目を離す時間が減る。



登降園  
管理

デジタル記録のためスムーズに打刻完了し玄関の混雑なし。打刻漏れも自動で保護者に通知。出席簿の作成も簡単※！（降園時も同様）



●●ちゃん 7:33登園  
○○くん 7:35登園



※導入するシステムにより異なります

## ICT導入前

- 急な発熱や体調不良の際、保護者が勤務中ではなかなか繋がらないことも...
- 子どもの様子を言葉で説明しづらい
- 電話するべきなのか判断に迷う



## ICT導入後のイメージ

### 保護者 連絡

- 保護者にすぐにメッセージが送れる
- 写真付きで子どもの様子を伝達
- 電話するほどではない留意事項も気軽に送れるため保護者支援をさらにしやすい





## ICT導入前

- 全園児分の連絡帳に同じことを記入する場合がある...
- 一つの情報を連絡帳や帳票など複数の書類に記載する必要がある

など、保育者の記入の手間がかかっている



## ICT導入後のイメージ

保護者  
連絡

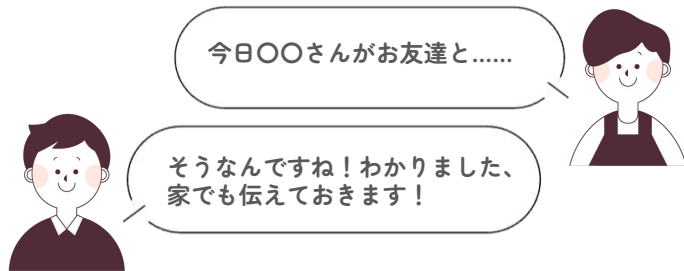
- ICTにすることで、同じことを何度も書く手間がはぶける
- 紙ではないため、隙間時間に記入しやすい

＼ 記入時間を短縮！ ／



## ICT導入前

- お迎え時に記入した連絡帳を手渡しする関係で、降園時の保護者コミュニケーションは、事前の情報がない状態ですべて口頭で説明をする必要があった
- お迎えに来る人によって、お伝えする内容の粒度が異なってしまうことがあった

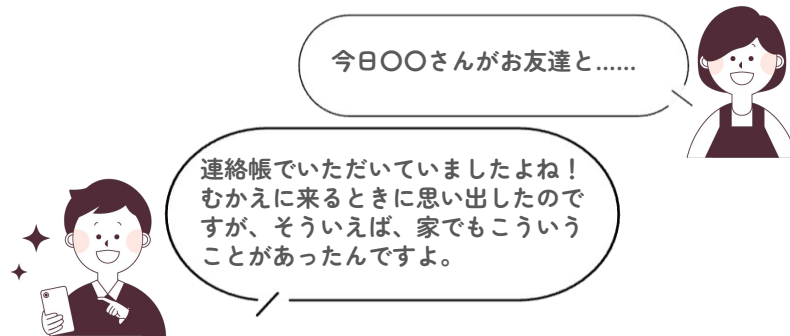


場合によって、家庭内で上手く伝わらないことも.....

## ICT導入後のイメージ

保護者  
連絡

- お迎え前に連絡帳を送信しておくことで降園時の保護者とのコミュニケーションでさらに一歩踏み込んだ会話ができるように
- 家庭内でも園・施設からの連絡を共有しやすくなる



紙だと記入者が決まっていた連絡帳も、デジタルにすることで家庭内共有ができるように！

## ICT導入前

- 先月分や昨年分の参照が、なかなかスムーズにいかないことも...
- 他の書類からの書き写しが多く、書くべき内容に集中しきれないことも



紙だからこその悩みも.....

## ICT導入後のイメージ

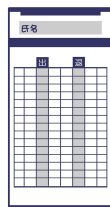
保育計画  
や記録

- 写真添付や豊富な文例、前月参照ができるから書きやすく、記憶頼りだった子どもの記録が目前にあるから、新人の視点の育成にもつながる
- 各種データが連携していると、書き写す手間が最小限に

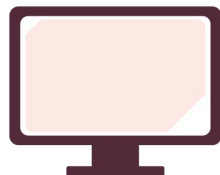


## ICT導入前

- 延長保育、預かり保育などの集計作業のため、紙の記録からエクセル等へ手打ちで入力しなおす必要があった



手打ちで  
入力  
→



表計算ソフトで  
集計したり  
管理表を作成



時間がかかったり、ミスが起きやすい

## ICT導入後のイメージ

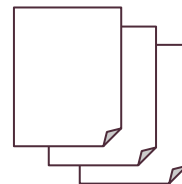
登降園  
管理

- 打刻記録はすでにデータ化されているので手入力の必要なし
- 料金の集計や別の書式資料への変換も手間が省ける

＼ データは自動入力済み ／



集計や  
管理表の作成  
も簡単に  
→



時間も短縮でき、入力ミスも防げる

## ICT導入前

- 保護者への一斉連絡の機会が多いけれどやり方はさまざま...
- 印刷経費やプリントを折る作業も発生

- ✓ 保護者災害・緊急メール一斉配信
- ✓ 掲示板や電話でのクラス連絡
- ✓ 持ち物・忘れ物の連絡
- ✓ 園だより・献立などの
- ✓ 毎月のプリント連絡

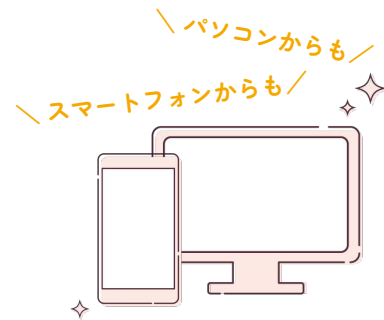
など、日々の連絡は多い



## ICT導入後のイメージ

保護者  
連絡

- 管理者がパソコンから一斉連絡したり、クラスの先生が写真付きで連絡したり、多様な使い方
- 添付ファイル送信で印刷できるため、印刷経費や折る手間が省ける



保護者に届く！



## ICT導入前

保護者に関する集金業務は、保育料等の計算以外にも用品の販売など多岐にわたる

- 請求書や領収書の発行などが発生する
- 保育料等の計算も園児ごとによって計算が必要
- 現金を預かる責任も大きい



## ICT導入後のイメージ

キャッシュレス決済

- 管請求額の計算、請求書や領収書の発行はすべて自動で行われるため、計算や発送業務の手間がなくなる
- 現金を預かるストレスがなくなる



# ICT導入園の声



## さくらしんまち保育園 東京都

保育園には膨大な情報が溢れています。それを管理し、活用し、伝達していくことは容易ではありません。短期的に記憶しておいて、後で他の職員やご家庭に伝えることが多いとそれだけで頭がいっぱいになり、時には伝え忘れてしまうこともあります。それを解決する為にICTを導入することにしました。

今は申し送りなど細かい共有事項含めて、こまめに入力して使っています。記憶力に頼って覚えておかなきゃ、という焦りがないので、目の前の子どもに集中できるようになりました。

## 月隈こども園 大分県

保育の質を向上し離職を防ぐためには業務負担軽減が必須だと考えていましたが、マンパワーが足りず職員に負担がかかっていました。研修をもっと受けてほしいという気持ちはありながら、集まってもらうことから始めなくてはならず、そのための時間の確保も大変でした。ですが、ICTベンダーの提供する研修サービスが利用できることにより、オンラインで動画でいつでも見られるので、職員に声をかけやすくなりました。

## ドレミナーサリー 埼玉県

当園は園児数も多くなく、先生方もベテランが多いため毎日口頭で伝達も済む状況ではあったものの、デジタル化（ICT化）することで、全ての先生がクラスの隔たりなく子どものことも保護者のことも、より把握できるようになったと感じています。

これまでは手書きで記帳していましたが、「今日は○○ちゃんはどうだった」とそれぞれの先生の頭の中に入っていることも、記録として共有できます。また、情報を一度入力してしまえば、別の書類に反映させられる・別の形式に整えるといったことが簡単になりました。これまで手書きで書き留めておいて、別の用紙に書き直す・転記するといった二度手間の作業から解放されたように感じます。書き写すことによるミスも防げます。